

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

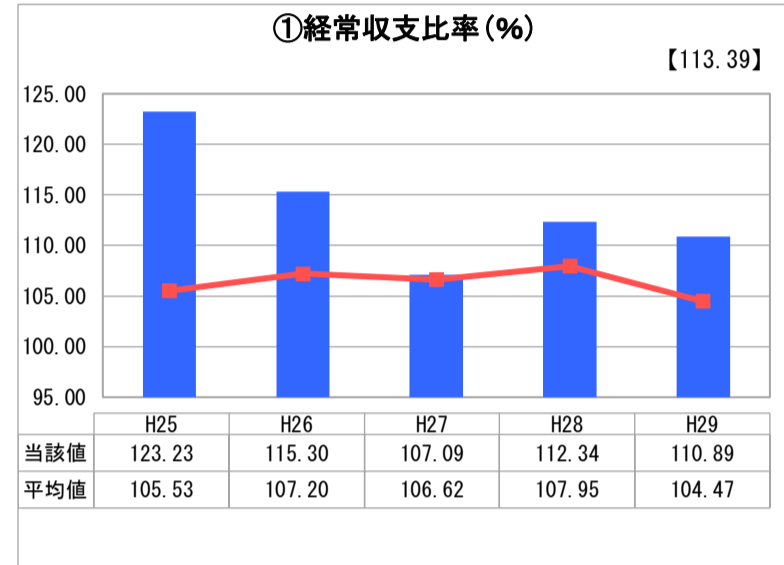
千葉県 山武市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	57.87	14.30	4,233	

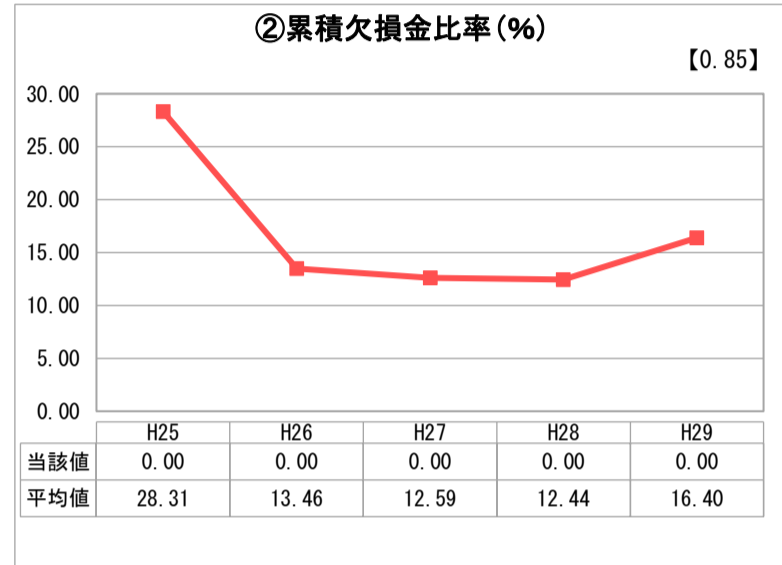
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
52,701	146.77	359.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,493	21.36	350.80

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

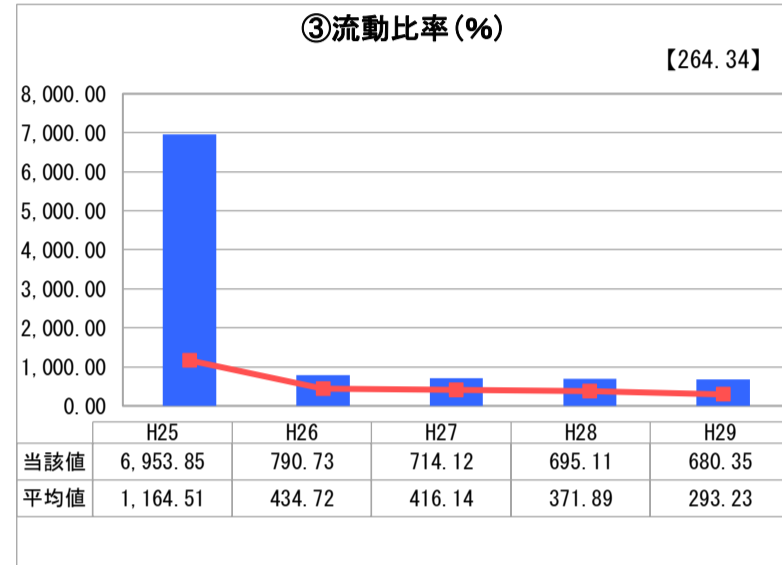
## 1. 経営の健全性・効率性



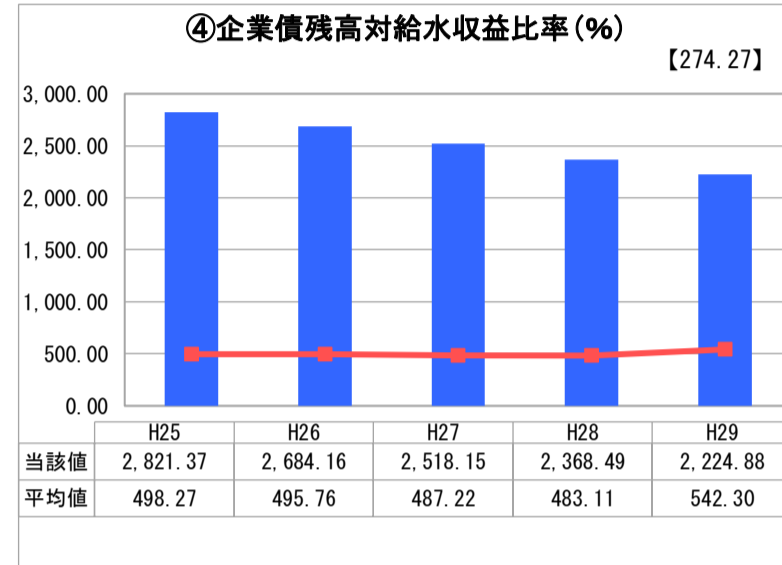
「経常損益」



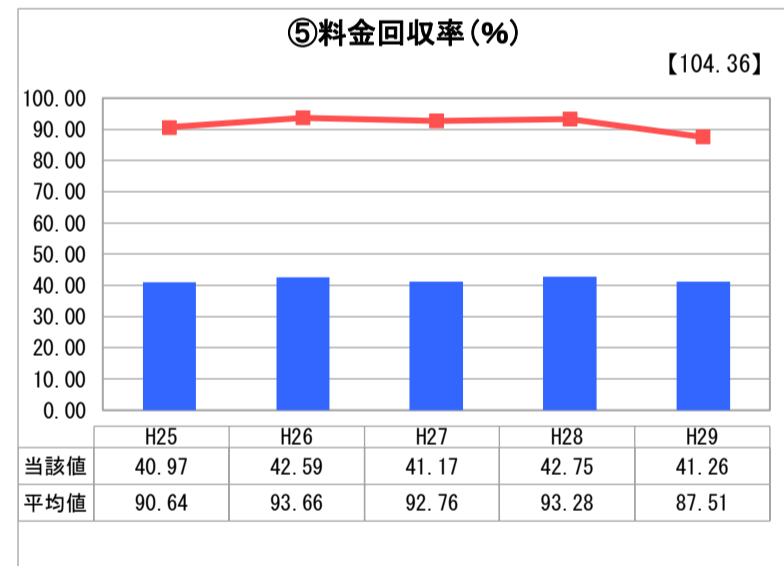
「累積欠損」



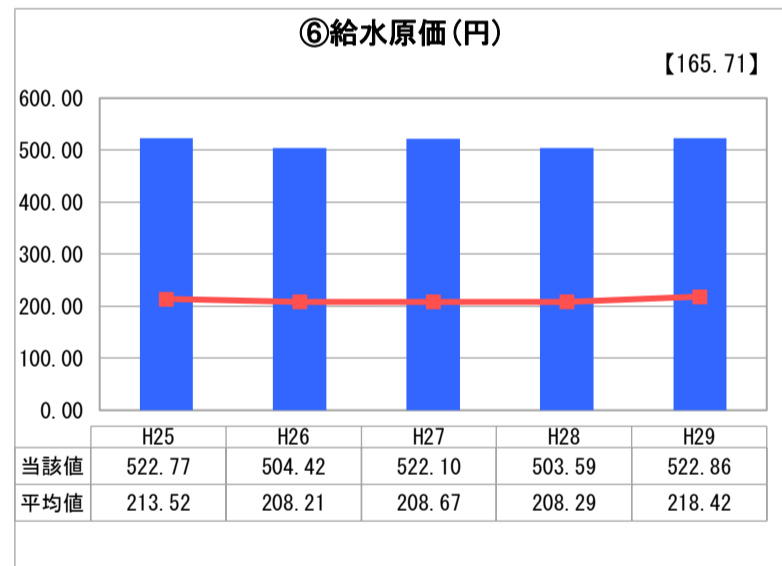
「支払能力」



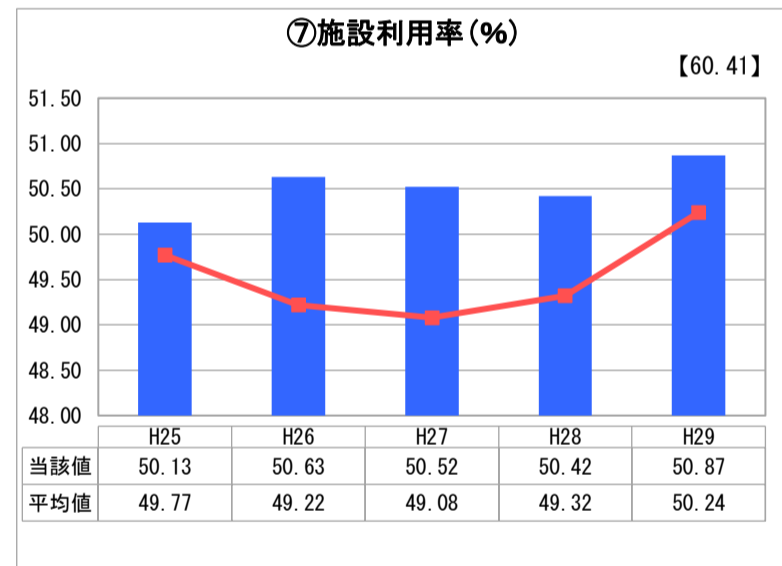
「債務残高」



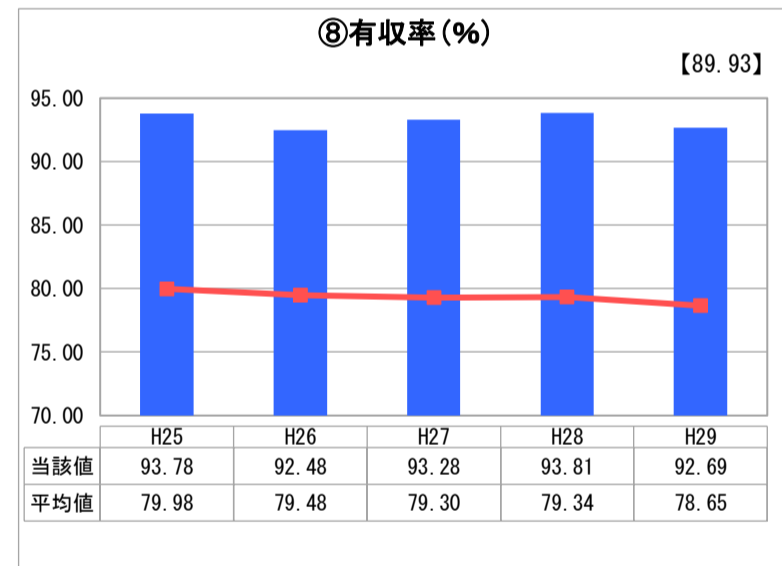
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

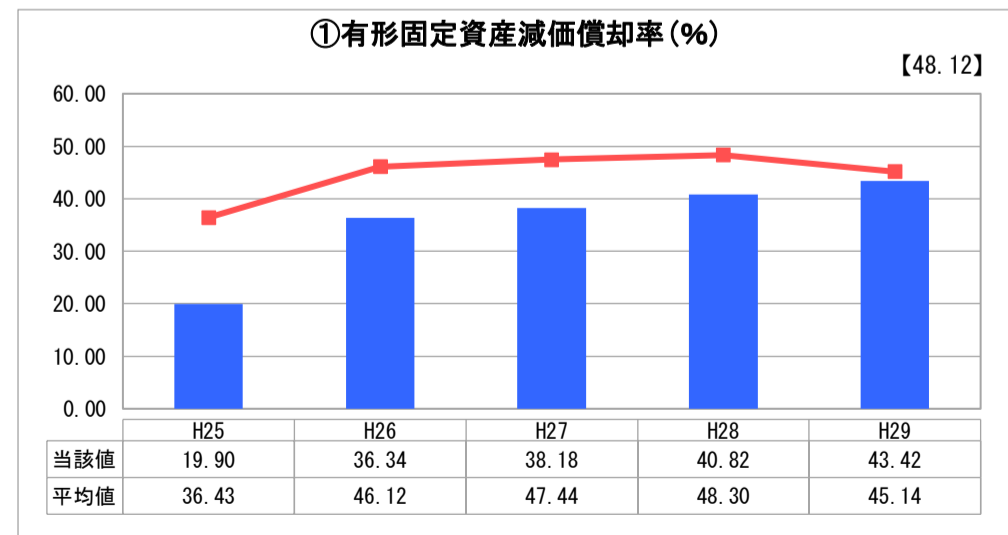


「施設の効率性」

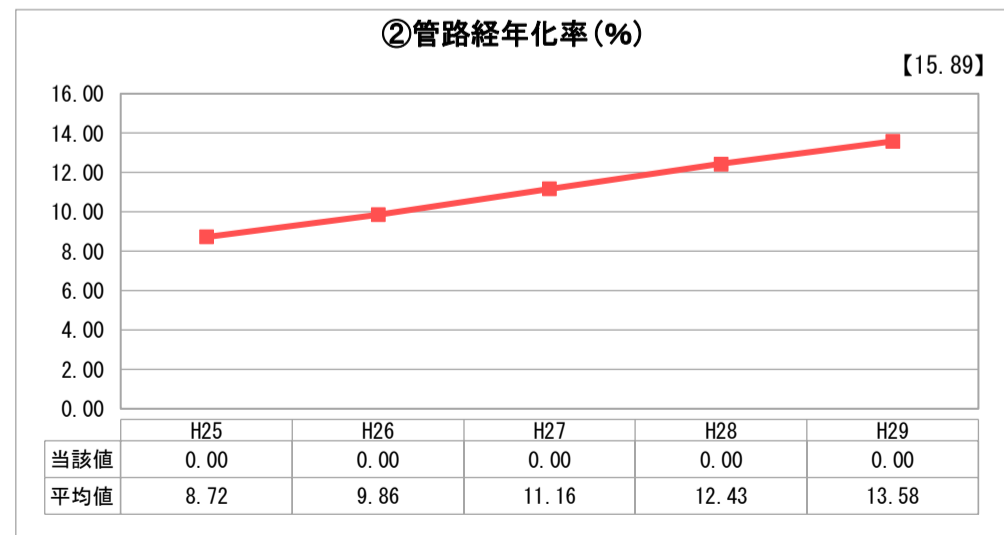


「供給した配水量の効率性」

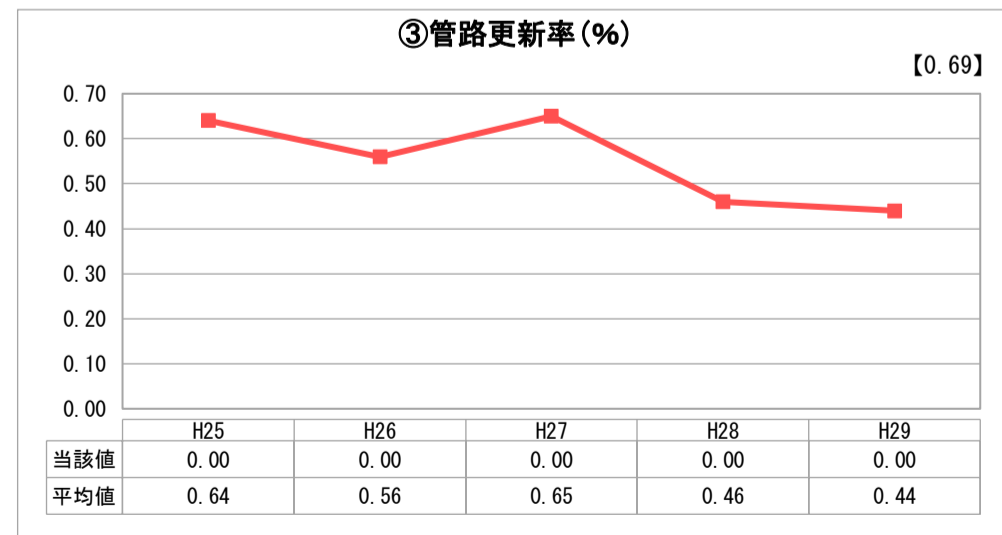
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は類似団体平均は上回るものの料金回収率は類似団体と比較しても低く、高料金対策として、一般会計からの繰入金及び市町村水道総合対策事業補助金等、給水収益以外の収入で賄われているのが現状である。

企業債残高対給水収益比率は類似団体と比較してかなり高い状況である。原因は、供用開始から日が浅く、創設時に発行した企業債の残高が多いためである。

料金回収率が低い原因は、供用開始から比較的日が浅く普及率が低いため、結果的に有収水量が少なく給水原価が類似団体と比較しても極端に高いためである。

給水原価が類似団体と比較して高い要因としては、前述のとおり普及率が低く、これに起因して有収水量が少ないこと、経常費用に係る減価償却費の割合が高いことである。その結果、給水原価が高い水準となっているが、今後施設整備に係る減価償却費の減少による費用の削減が見込まれるため、僅かではあるが徐々に低くなるであろうと推測される。

創設期の事業が終了し、平成20年度以降企業債を発行していないため、企業債残高対給水収益比率は当面の間、減少傾向が続くものと推測される。

施設利用率は類似団体よりも高く、有収率は全国平均を上回っている状況である。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始から比較的日が浅いため、有形固定資産減価償却率は、類似団体と比較しても低い状況である。

また、管路については供用開始が平成13年と比較的新しいため法定耐用年数を越えたものが無く、管路経年化率は0%である。

## 全体総括

経営面では、供用開始から日が浅いことから、今後も普及率、有収水量は増加を見込んでいるものの、施設等が更新期を迎えてくるため、大幅な更新需要が見込まれる。

今後、安定的な事業運営を行っていくためには、未加入世帯への普及促進による普及率の向上や維持管理費の削減といった経営改善が必要である。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。